

(十) 五條にご縁をいただく

下 山

昭和二十三年三月十五日、高野山専修学院を卒業。高野山真言宗の布教伝道の許を得た私は、大師のお告げ通り、一日も早く下山して有縁の方々のために一生懸命に祈り、心の迷いを解く法話をするため、翌日十六日早朝、出発。

高野山ケーブルの一番に乗るため、急いで学院を出ると、早朝のためにバスはまだ通らず、雨が降っています。寝具以外の全財産（衣類・経典・書籍など）を背負い、雨傘をさして高野山駅にやっと到着しましたが、ケーブルは一分違いで、出たあとでした。やむなく二番で下り、橋本駅に着きましたが、王寺行きの列車が来るまでは二時間も待たなければなりません。そこにちょうど五條駅止めの列車が入ってきて「少しでも名古屋の近くま

で行こう」と飛び乗りました。

三度目の奇遇

五條駅についた私は、次の王寺行の列車を待っていました。そこへ偶然、内田さん（雨の日に高野山まで法を求めてたずねてこられた婦人）が大きな荷物を背負って通りかかったのです。内田さんは、

「これから大阪に商売に出かけるところだったがやめます。私の家に来て有難い話をして下さい。名古屋に帰られたら、もう会えないから」と誠意をもって誘われ、ことわりきれずに内田さんのあとにしました。

内田家につくと、前に高野山まで登ってきてくださった二人の婦人や、知人などが集まり、夕食後には十人ほどの人が法話を聞き、お加持を受けられました。痛みがやわらぎ、

心が明るくなられたのか、翌朝は朝早くからご祈祷を受ける人が次々と入って来られました。そうして頼まれるままに一週間も足をとめられてしまい、その間、百人くらいのお加持をしたように思います。

昼食をとりながら、故郷の母の顔が浮かんで来ました。

「卒業式の日時を知っている母が、きっと心配しているんだろう。どうしても明日は名古屋へ帰ろう」そう決意し、帰る準備をする私の所に、翌朝早くから、三十余人の方々がお世話になったお礼にと、物資のない時代に、私に必要と思われる品々を持参して下さいました。

真心の品々

思いがけぬ贈物に、私は再三固く辞退しましたが、

「私達の志ですから、どうしても受け取って下さい。」と押し問答になりました。

「皆様のご厚志には、心より感謝しますが、荷物が多くてとても持って帰れません。名古屋まで送って下さる方がありますか？」

すると、一人のご婦人が、

「はい。私が荷物を持って送らせて頂きます。」と言われ、私は驚きました。

このご婦人は、鶴田さんと言われ、この方のご好意に甘えて、荷物を運んで頂くことになりました。

鶴田さんは、名古屋からの帰り際、

「五條に来て、縁のある方々を助けて下さい。私がお寺を探しますから……。」と涙ながらに言われ手を振って別れました。

熱烈歓迎

名古屋へ帰ってから、私は毎日、名古屋大空襲の焼跡のバラックの中で苦しむ人々を見舞い、法を説き、お加持して廻っていました。

桜の花満開の四月十日「寺あり。五條に来て下さい。」と電報が届きました。

在家出身の私に寺が与えられたことを喜び、五條へかけつけると、その寺は境内も狭く、一棟の中に仏と人とは同居する小さなお堂でした。少なからず失望した私でしたが、

「どうしてもこの五條にとどまって下さい。助けて頂いた私達が、一生懸命に応援させて頂きます。」と熱心な二十数人の方々が涙ながらに切望される姿に、この五條の地に浅くらぬ縁を感じました。

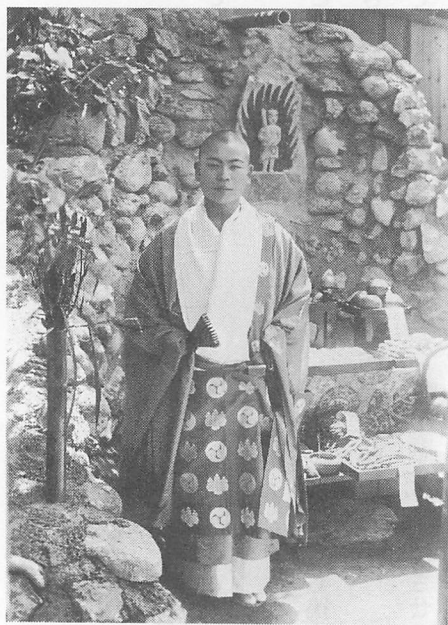
これも神仏のお導きでありましょう。

愛知県安城市、勝福寺住職、大見諦禅師が、

『桜の花の咲く頃独立せよ。徳は天にあり、狭い場所でもよい。』との予言が的中しました。

入 寺

信者の方々は私の入寺のため、生活必需品、寝具一揃、座布団十枚、炊事用具一揃、日用品、食料迄も出し合って、車で井上院へ運び、どうぞお入り下さい。私達が一所懸命に応援しますから。小さい寺でも力があれば必ず大きくなります。と熱誠と好意に、私は感



井上院近くに人工の滝行場を造る
滝開き記念

動し、五條に止錫し有縁の方々のために拝まして頂こうと決心しました。

その井上院は五條市岡口町、県立五條高校の門前にあり、外見は寺らしい所はなく、玄関前の銀杏の木の下に明治維新の志士、乾十郎氏の墓が道路に向いて建っています。

本尊は立像の阿弥陀如来、右脇に弘法大師と、地藏尊、左側に西国三十三観音霊場の小形な佛像が整然と並んでいる。この寺はもと井上内親王の菩提寺で井上院の寺名がある由、無檀家で無住職のため廃退し宗教法人の登記は出来てない貧寺でありました。

しかし自分が住み、法話をしたり、御祈祷をするには、不自由のない結構な所でした。私は天与の修行場と心を定めて昭和二十三年四月十八日この寺に入寺させて頂きました。

毎朝五時の朝勤行に日参する熱心な信者が十数人もあり、この人達が知人、友人を紹介して、加持祈祷を受ける人は日毎に増加しました。同年六月に五人の徒弟が出来て唐招提寺長老、森本孝順師に従い得度し七月には四名が前高野山専修学院寮監飯野俊宜僧正の伝授のもと四度加行を修行するところ迄真言密教は広まり、この熱烈な徒弟達が、私を外護してくれました。



徒弟や信者と共に高野山奥之院にて
(昭和二十三年六月得度式後参拝記念)

救いとは何か

病氣の人は病氣が治ることが救いであり、貧しき人は豊かになること、家庭不和の人は円満になること、良縁に恵まれぬ人は良縁を、子供の授からぬ人は子供を、知恵を望むものは知恵を、……切実な願いを満たす事が救いであります。

しかし、病に軽重あり、迷いに浅深あり、欲望は人によって異なり、若千二十五歳の私にとって、何かと頭を打つことが無数にありました。

さまざまな願いを、お大師さまは守って下さいますが、心の救済が出来ていない限り、一時的な歓びで、その後は不足がちな生活に逆戻りしてしまいます。

「心の救済」——それは、自分は仏の子である、という自覚と、その仏性に恥じない生活、拌み合い、助け合いの暮らし、お大師さまと同行二人であるという安心と歓喜。それが永遠に変わらぬ信仰生活でなければなりません。

『虚空尽き 衆生尽き

涅槃尽きなば 我が願いも尽きなん』

(お大師さまの大誓願)

衆生無辺誓願度一菩提心を高揚して、日夜三密修行を怠らず、いや永遠に怠らず。
お大師さまの大誓願に我もつづかんことを願う。

南無大師遍照金剛

著者略歴

大正十三年十一月二十八日 愛知県岩倉市で誕生

昭和二十三年三月十六日 高野山専修学院卒

昭和二十六年七月三十日 奈良県五條市犬飼町一二四 転法輪寺 入寺 住職

内吉野宗務支所代議員 支所自治布教団々長

第五地域伝導団副団長 内吉野宗務支所長 等務める

昭和六十三年十一月五日 高野山真言宗伝灯大阿闍梨に昇進

平成五年十二月六日 権大僧正に昇補

いろはには入るぬを
わかたれつねならむ
うゑのおもやけふこ
あさきけめふとい

天回車狀



平成七年十一月二十一日発行

『救いを求めて』

著者 高野山真言宗 転法輪寺

住職 桑山聖規

〒576 奈良県五條市大飼町三番

電話 (0747) 214403 番

印刷所 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺

森本印刷工業所